

## 【一】解答

問一 多機能を使いこなすためにたくさんさんの説明が必要となり、覚えきれない程の量になってしまふという問題点。

問二 (1) 仕事をすすめるための手引書として、仕事の手順を文章などにまとめること。

(2) 誰がやっても仕事内容に大きなぶれが生じにくく、仕事の安定化が図れること。

(3) 新しいものや新しいやり方が生まれず、また、想定外の状況に対して対処できないこと。

問三 (1) エ

問四 C (2) イ

【二】問一 イ

問二 日が暮れても帰ってこないジョンを心配する気持ち。

問三 ウ

問四 鳩の命を守ろうとするジョンの決意がかたいということがわかったから。

問五 観念して鳩を抱いたことで小さな生きものの命の温もりを感じ、優しい気持ちが芽生えている。

1	【三】	1	推察	2	民衆	3	貯水池	4	風潮	5	汽笛
6	秘境	7	閉館	8	混戦	9	敵守	10	移植		
11	歯	12	増〔やす〕	13	養〔う〕	14	固〔める〕	15	唱〔える〕		

## 解説

出典は栄光学園国語科による、「マニュアル」について述べた説明的文章。

問一 【一】 漠然と「マニュアル」の問題点を問う問題ではなく、『多機能化』が進んだ製品の『マニュアル』と、絞り込んだ問いである点に注意して、説明部分を見つけます。「マニュアルを読む」という言い方をした場合が使用説明書とか手引き書となります。そして、「特に」と示して、「多機能化」の説明をしながら、「しかし……」と問題点を指摘している部分を見つけて、内容を確定していきます。答えに示すべき事として軸となるのは、「量が多くなる」（ページが増える）点ですね。そして、「多機能を使いこなすため」という理由付けを入れて、解答を完成させます。

問二 (1) 「仕事をマニュアル化する」という作業は、手引き書という意味で、仕事の手順を文章などにまとめたものを言います。問いでは、「どうすること?」ときいてますので、そのまま文章から言葉を利用します。ただし、「仕事をするための手引き書として」と説明することで、答えをまとめます。

(2) (1)の答えの内容と同じ部分に説明が続いています。「作業手順などのマニュアルを作っておけば」という言葉で説明を導いています。一つは、「誰がやっても仕事内容に大きなぶれや失敗が生じにくくなる」こと。もう一つは、「仕事の安定化が図れる」ことです。問いでは、「長所は、どのようなことですか」ときいてますが、「生じにくくなる」ことと、「図れる」ことは、マニュアル化することによってもたらされる長所といえるでしょう。

(3) (1)、(2)の解答が説明されている形式段落の次に、「しかし」、「よい面ばかりあるわけではありません」と説明の展開が見られます。ただし、筆者の体験をふまえないがらの「バーコードリーダー」の例、そして、「会社組織における、緊急時の対応として、上司や責任者に連絡をするマニュアル通りの行動」の例を示しながら、文章の最後の形式段落で、「欠点」についての要点がまとめられています。「したがって」という言葉で順接的にまとめに掛かっている点に気付くと、「マニュアルどおりの仕事からは、新しいものや新しいやり方はうまれてきません」が、つかめ、「また」と並立する流れで、「ので」と順接展開で、「想定外の状況に対しては対処できません」を見つけることができます。

問三 この文章中の意味を答えよとは指定されていませんが、言葉になじみがなければ、文章中の意味を正確につかむようにするとよいでしょう。

(1) 何について、どういう様子を指して、「至れり尽くせり」と表現しているのかを考えると、確定できます。

(2) 誰が、何に対して、どういう理由から、どういう心持ちでいるのかを指している言葉かを考えれば、確定できます。筆者が、店員のマニュアルに忠実な非能率的な行動に対して、バスに乗り遅れるのではないかと落ち着かない心持ちを表していると判断します。

問四 形式名詞の「ため」には、二通りの意味があります。「目的」と、「原因」です。「に」をとまって使う場合が多

いです。A「運転をできるだけ楽にするために」(目的)、B「本製品を安全にお使いいただくために」(目的)、C「コンピュータを組み込んであるために」(原因)、D「多機能化が進んだ製品を十分に使いこなすためには」(目的)と、Cだけが、原因を表しています。

【二】 出典はバーリー・ドハーティー作／中川千尋訳「シェフィールドを発つ日」。

問一 言動の理由を問う問題になってます。この場面では、「わたし」がパパに言われて、乾燥機を開けようとするど、「ジョン」が乾燥機のところまでかけのぼってきます。傍線部の後の内容からわかるように、乾燥機には「鳩」が入っていて、大変なさわぎになりますが、その「鳩」は、ジョンが入れたということがわかります。そこから、ジョンの行動は、自分が家族に秘密でしまっていた「鳩」が見つかることをおそれたことによるものだったということがわかります。

問二 「ママ」が心配しているのは、ジョンのことです。ジョンは、パパのいいつけで、「鳩」を拾った場所に返しに行っています。傍線部分の前の行で、「この日の日暮れは早かった」とありますから、日が暮れ始めても、自転車をしていって「鳩」を捨てに行ったままなかなか帰ってこないジョンのことが気になって仕方ないのでしょうか。その気持が、ボールペンの行動に結びついているのだと言えます。ここは、ママの言動の説明をすることになりますから、事実説明を含めて、ママの心情を説明することで、答えが仕上がります。

問三 この場面がどんな状況かはイメージできていますね。家族全員がママを筆頭に、どこことなく落ち着かない重苦しい雰囲気です。そんな中で、ジェスは沈んでいる家族の気持ちをまぎらそうとして、わざと別の話をしているのですね。ですから、歴史だとか明日試験だとかは、いつてみればどうでもいいことなのかもしれません。

問四 傍線部の中の「段ボール箱」は、当然「鳩」を飼うための入れ物ですね。ママの気持ちは、「鳩」を飼うという方向に動いているのは、その「段ボール箱」を、「わたし行つて取ってくるわ」という言動からわかりますね。では、なぜママは、いや、おそらくパパまでもが(視線を交わしながら)そのような気持ちに動いたのでしょうか。それは、ジョンの語った考え、すなわち決意を受け止めたからです。そのジョンの決意とは、放っておけば死ぬとわかっている「鳩」を見捨てることはできないという(責任感)強い気持ちがかめられたものです。その、「鳩」の命を守りたいという強い思いが、ママとパパに伝わり、飼おうという言動に結びついたのでした。

問五 「わたし」の「鳩」に対する印象は、「ぞっとする」、「怖い」などに表れています。その気持ちを持ちながら、ジョンに言われるままに「わたし」は観念して「鳩」を抱いてみます。すると、意外にも(思いのほか)「軽く」、「温かく」、「とくとくと波打ち」、「せかせかとおびえている」生きものが、「わたし」の手の中にいるのでした。ここで「わたし」は「鳩」に、小さな命のぬくもりを感じたのでしょう。そして、「鳩」に対する愛しさが芽生えてきたのです。したがって、「わたし」の「鳩」に対する気持ちは、「恐ろしさ」から、「愛しさ」、「優しい気持ち」に変わっていったとまとめることができます。